

緒川城址 おがわじょうし



水野貞守が文明年間(1469～86)に築城したと伝えられ、忠政や信元ら水野氏の居城となった。緒川の比高8mの台地上に築かれ、絵図によれば主郭は東西83m、南北95mの平山城である。現在は主郭の北西部の土塁が残されているのみである。

乾坤院 けんこんいん



文明7年(1475)、水野貞守
が一族の菩提寺として創建
する。寛文10年(1670)には
岡崎城主水野忠善により、
水野氏歴代の位牌を祀る堅
雄堂が建立され、水野忠政
と忠善の座像を奉納した。
また、境内には水野忠政と忠
守・忠元・忠善の墓がある。

善導寺 ぜんどうじ



嘉吉3年(1443)創建と伝える。於大は生前善導寺を菩提所と定め、自身の所持品を寺に納めている。慶長10年(1605)には緒川城主水野分長が水害を受ける海辺から現在地に移築、於大の位牌を安置し、寺領20石と屋敷を寄進した。

於大のみちと
於大の方ゆかりの場所



於大のみち

“於大のみち”は、生立ち広場から乾坤院までの明徳寺川の両岸約2kmの歴史散策路です。沿道には約400本の八重桜が植えられ、於大が着用した夜着をモチーフにしたモニュメントなどが設置されています。また、左岸には「於大の方物語」、右岸には「東浦の歴史」を記した陶板が敷かれています。

徳川家康の生母

於大の方

東浦町教育委員会

東浦町郷土資料館（うのはな館）

愛知県知多郡東浦町大字石浜字桜見台18-4
TEL(0562)82-1188 FAX(0562)82-1189

各地で武士が天下を目指し、自身の生き残りをかけ、争った戦国時代。於大は享祿元年（五二一八）、東浦の緒川城四代目城主水野忠政の娘として生をうけました。

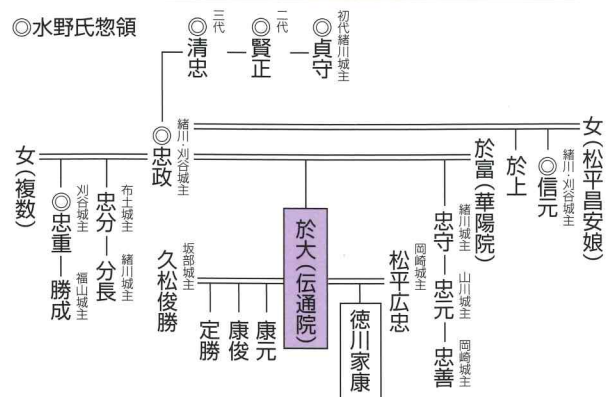
この頃東海地方では、東に駿河守護今川氏、北に尾張の守護勢力の斯波氏と織田氏がひかえ、その間の三河と知多半島には松平・水野・佐治・戸田・大河内氏らの新興勢力が台頭し、今川方か斯波・織田方のいずれかについて、攻防を繰り返していました。

緒川・大高など知多半島北部と三河刈谷を支配していた水野忠政も、今川方の岡崎の松平氏と手を結ぶため、於大を松平広忠のもとへ嫁がせました。しかし、広忠との間に家康が誕生して間もなく、今度は忠政の跡を継いだ兄信元が織田方についたため、松平氏と離縁することになりました。

で勝利し、天下統一を進めるなかで、家康の母としても力を尽しました。

家康が征夷大將軍になり、江戸幕府を開く二年前の慶長七年（一六〇二）、京都伏見城で最期を迎え、七五歳の生涯を閉じました。その時々々の情勢に左右されながらも、一生を生き抜いた於大は、まさに戦国の世界に生きた女性でした。

水野氏関係系図



於大の方

水野氏の女として 家康の母として
戦国の世に生きた於大の方
その波乱の生涯は 時をこえて
郷土に語り継がれてきました

享禄元年（五二八）

於大 緒川城に生まれる

父は四代緒川城主水野忠政、母は於富の方でした。於大が生まれた後、母於富の方は離縁され、岡崎城主松平清康に再嫁しました。

天文二年（一五三三）於大が六歳の時、父忠政は刈谷に城を築き、家臣とともに移ったと伝えられています。

天文〇年（一五四一）

一四歳

岡崎城主 松平広忠に嫁ぐ

織田・今川両雄の間にあって、緒川・刈谷の領主水野忠政は、織田方に属しながらも今川方の松平氏と結ぶことで勢力を保とうとしました。その政略のため、於大を岡崎城主松平広忠に嫁がせました。
そして翌年、竹千代（家康）が生まれました。

天文三年（一五四四）

一七歳

離縁され 刈谷へ帰る

父忠政の没後、家督を継いだ兄信元は、織田方の旗色を鮮明にします。そのため、於大は松平氏から離縁されることになりました。岡崎から帰される途中、機転をきかせ、領地境で送ってきた岡崎の家臣を帰し難を逃れさせたと、後に語り継がれています。

刈谷での於大は、姉とともに刈谷城外の椎の木屋敷で暮らしたと言われています。

天文六年（一五四七）

二〇歳

坂部城主 久松俊勝に再嫁する

坂部在城は一五年に及び、夫俊勝との間には、康元・康俊・定勝など三男四女をもうけました。

一方、岡崎に残した竹千代は、織田さらに今川の人質として苦難の年月を送りました。於大は、竹千代のもとに菓子・衣類とともに手紙を送って励ましました。

永禄三年（一五六〇）

二三歳

於大 家康と再会する

この年、上洛をめざす今川義元の先発隊として出陣した元康（家康）は、坂部城に母を訪ね再会を果たしました。そして、対面した三人の異父弟に松平の姓を許しました。

桶狭間の戦いで義元は討たれました。その後、元康は信長と同盟を結び、三河平定に乗り出しました。

永禄五年（一五六二）

二五歳

夫 久松俊勝とともに岡崎へ移る

夫俊勝は、家康にとりたてられ蒲郡の上ノ郷城主となりました。城を息子の康元に守らせ、岡崎城の警固にあたる夫とともに、於大は岡崎に移りました。

信元を始めとする水野一族は、家康を助けて三河の一向一揆平定に力を尽しました。

天正二年（一五八八）

六二歳

剃髪して尼となる

天正一五年に夫久松俊勝が亡くなりました。翌年、於大は夫の眠る蒲郡安楽寺で剃髪して尼となり、伝通院の号を授かりました。また、亡き母於富の方と自らの姿を描かせ、文禄三年（一五九四）、刈谷楞嚴寺へ納めました。

慶長七年（一六〇二）

七五歳

伝通院於大の方 逝去する

於大は、天下をとった家康の招きで訪れていた京都伏見城で七五歳の生涯を閉じました。法名は、伝通院殿睿譽光岳智香大禅定尼。江戸小石川の伝通院に葬られました。
慶長一〇年、緒川城主水野分長は、故郷緒川の善導寺に於大の位牌を納め、寺領二〇石余を寄進しました。

於大の方 略年表

年号	年齢	
1528		緒川城に生まれる
1541	14	岡崎城主 松平広忠に嫁ぐ
1542	15	竹千代(家康)を産む
1543	16	父 忠政死去 兄 信元が家督を継ぐ
1544	17	離縁され刈谷へ帰る
1547	20	坂部城主 久松俊勝へ再嫁
1560	33	家康と坂部城で再会する
1562	35	夫久松俊勝 上ノ郷(蒲郡)城主となる
		岡崎城を守る夫とともに於大も岡崎へ移る
1587	60	久松俊勝死去
1588	61	夫の眠る安楽寺(蒲郡)で剃髪して尼となる
1594	67	母と自身の姿の肖像画を楞嚴寺(刈谷)に納める
1602	75	家康に招かれた京都伏見城で死去する
		伝通院(江戸)に葬られる
		遺髪が洞雲院(阿久比)と大泉寺(岡崎)に納められる